
銀魂 3年Z組銀八先生～菜葉～

夜三

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀魂 3年Z組銀八先生（菜葉）

【Nコード】

N3806T

【作者名】

夜三

【あらすじ】

私のオリキャラの、銀魂高校での日常です。
時間がある人は見て下さい（・ー・）

設定&オリキャラ紹介

こんにちは！！夜三です（＾Ｏ＾）／

このお話は私の書いている「銀魂 ずっとみんないつまでも」に出てくるオリキャラの、銀八先生バージョンです♪

まあ・・・今日はその設定とオリキャラのこと知らない人のために紹介します。

〵オリキャラ紹介〵

たちはな
立華 なのは
菜葉

初登場の時は、15歳

誕生日は、3月10日です。

・・・ほかの設定は、「銀魂 ずっとみんないつまでも」のほうで、みてください（↑ってオイッ！！）

オリキャラは、こんなかんじで次は設定。

設定

菜葉

菜葉は、公園に捨てられている所を銀八に拾われました。

菜葉は、自分が捨て子だってことは知っていて、別に本当の親に会いたいとかは全然思っていないです。
むしろ、このままがいいと、思っています。

というわけで、坂田家に銀八と二人暮らしです。（ちなみにアパート）

お登勢さんや、坂本辰馬、だいたいの人はずっと知っている。

新八、神楽、沖田は、ご近所さんで小さい頃からの幼馴染。（沖田と神楽は同じアパート）

菜葉は、近藤の道場に通っていて、家も近くて学校の帰り道も一緒に沖田と神楽とは仲が良い。

菜葉は、学力は学年1位か2位ぐらいで記憶力が良い。

神楽家

海坊主（神楽の父）は転務てんきんのため、めったに、帰ってこない。

神楽は神威と母の3人暮らし。

7歳の時、菜葉達と出会った。

神楽は、菜葉との大の親友のため自分が大嫌いな総悟と菜葉が仲良くしているのが、気に入らない。

沖田家

総悟は姉ミツバと母の二人暮らし。
母の名前は、よつば。

父は総太。そうた

よつばは、スーパーのパート。総太はバリバリのサラリーマンで結構稼いでる。

菜葉とは、ゆういつの仲の良い幼馴染おさななじみなため、7歳の時は急に菜葉と神楽が仲が良くなり、その時から神楽の事が大嫌い。

みんなの初登場時の年齢

近藤こんどうⅡ17歳（銀魂高校3年生）

土方Ⅱ16歳（銀魂高校2年生）

ミツバⅡ16歳（銀魂高校2年生）

お妙たえⅡ17歳（銀魂高校3年生）

菜葉は総悟は、近藤さんと知り合った頃から近藤さんの剣道道場に通っています。

なんとなく、こんな感じです。

よろしくお願いします♪

設定&オリキャラ紹介（後書き）

夜三　　昨日さあ、国語のテストがあったんだけど全然分んなかった・・・

なのは　「まあ、あんたのことだから、テスト勉強たくさんしたけどわからなかった　　ってことなんでしょ？しかたないよ」

夜三　　・・・（汗）。

なのは　「？なに、どうしたの」

夜三　　・・・すみません。全然テスト勉強してませんでした！！
なのは　「してなかったんかい！！」

第一話 夏休み前って、一番テンション上がる

空が、そりゃもうよく澄んだ朝であった。
時刻は九時を少し回ったところ。

「そもそも、規則正しい生活とは————」

7月22日———終業式。

明日からは夏休みだ。

夏の暑い体育館。
全校生徒が集まる蒸し暑い体育館で校長はもう、10分以上話している。

夏休みの正しい過ごし方などを、段々と話す。

夏休みの過ごし方なんて小学生のころから毎年聞いている、とみんな思っていることだろう。

(はく・・暑い・・・。まだ話終わらないのお!!!)

菜葉は、いまにも叫びだしたい。暑いっ!!、と叫びたい・・・。

まあ・・、叫んだところで暑さがなくなるわけじゃないし、校長の話が早く終わるわけじゃないんだが。

「あっつい・・・」

。菜葉は、誰にも聞こえないくらいの小さな声でそうつぶやいた・・・

「―――それでは規則正しい生活をおくるように」

約15分弱^{ふんじやく}ほどで校長の話は終わった。

まわりでは、やっと終わったー、よしっ今日から夏休みー、などの
歓声が聞こえる。

「菜葉あ、明日から夏休みアルなあ」
「うんっ。楽しみ!!」

菜葉は、となりに居る神楽と嬉しそうに話す。

菜葉は、思った。

これから長い長い楽しい夏休みが始まる――――。

菜葉は、嬉^{うれ}しさとしなにかがおこりそうな不安が、頭の中によぎった。

第一話 夏休み前って、一番テンション上がる（後書き）

夜三 今日では委員会の仕事でお昼の放送で少しだけどしゃべったよ
なのは 「……………」

夜三 すっごい緊張したよおゝ
なのは 「……………」

夜三 ……聞ってる？
なのは 「……………えっ？ああ、う、うん！……………」

夜三 聞いてなかったでしょっ

なのは 「えっ…………。とゆうかなによ！なにかがおこりそうって、
気になる

じゃん！！」

夜三 ふふふ…………。まだ内緒だよ…………。

なのは 「もうっ！！」

第二話 夏休みっていつでも最初なにやれば良いか分からない

夏休み初日———。

銀八は昨夜セツトした、携帯のアラームで目が覚めた。

（ったく！・・・何で生徒が来ない夏休みまで仕事行かなきゃいけないんだよ）

心の中でそう思い、銀八は重い体を起こす。

一応説明しておくが、彼の名前は阪田銀八。

一応高校教師で（銀魂高校）、菜葉を拾いなんやかんやで自分が親となり、いままで大切に育ててきた。

で、高校は今夏休み。だが教師は学校が休みでも行かなくてはならない。

まあ、銀八は少なくとも午後から行けば良く、8月の20日から8月の30までの、休みもある。

といっても、夏の暑い中行きたくはないわけで。

銀八は、だるそうに枕元にある、眼鏡をかけると部屋の戸を開けた。

「・・・って、ぼげらっ!!」

銀八の寝ている部屋は、リビングとつながっている和室で、その間を仕切るふすまを開けたとたん、菜葉が投げたクッションが、銀八の顔面にクリーンヒットした。

「って、した、じゃねーよっ！この小説始まって俺の出した言葉の第一声が『ぼげらっ！』なんだよっ！」

「あ、銀八おはよ」

「『おはよ』じゃ、ねえっっ！！何故投げた！？」

「あつ、ちょっとゲームやって、それで敵に負けて、思わず近くにあったクッションを投げちゃって
ごめん」

たしかに菜葉の手には、PSPがあり最近買ったと言っていたカセ

ットをやっていたようだ。

「つたく!! 物にあたるなつ、物につ。それに、大体お前仮にも受験生だろ? それに夏休みの宿題だってあるだろつ。・・・朝っぱらからゲームなんてやってて良いのかよ」

「あー。それは大丈夫」

銀八の言葉に、へらへらと、かわらぬテンションで言う菜葉。

「宿題のワークは、全部終業式から帰ってからやったしあと習字もつ。あと、朝起きてご飯食べて読書感想文書たの」

菜葉は、さらに続ける。

「んで、あとは今日中に午後から絵―描いて、明日図書館行って自由研究やろーと思ってる。あと、私
受験なんて楽勝だから。なめないでよ、一応教師の娘なんだからっ」

この事を聞いて銀八は思った――――。

ああこいつは一体誰に育てられたんだ。いや俺だけど。でも、銀八は高校教師で朝早く仕事に行き、夜遅くに帰ってくる。

ほんと、自分なんて仮にも親なのに勉強なんて教えたことなんて数えるほどしかないし、遊んだのだって菜葉が小さい頃は、ほとんど無い。

なのに、こいつは親って思ってくれる……。

銀八はふつうに嬉しかった。感動した。

「ったく。お前ってホントすげーな」

菜葉が銀八からの久しぶりに言ってくれた褒め言葉を聞いてこう言
った。

「あたりまえじゃないっ!! 私をだれだと思ってるの?」

菜葉は満面の笑みでこう言った。

第四話 最近の図書館って、すごく快適。(前書き)

キャラクター設定に付け足しをしました！

沖田家と神楽家の家族設定です。

一応見ていただいた方が、話とかが分りやすいと思います^^

第四話 最近の図書館って、すごく快適。

次の日、セミの鳴き声がより一層うるさくなった。

菜葉は神楽を誘って図書館へ行く道を歩いていた。

たぶん神楽は夏休みの宿題とか、まだ全然やってないだろうと思いつつ誘った。

神楽も菜葉と一緒に銀魂高校を受験する。

受験の問題は、決して簡単でわない。

神楽の学力では、ちょっと危ないのは菜葉も承知の上だった。

で、神楽の母に頼まれたし一緒に高校に神楽行きたいので、意地にも誘った。

神楽は、退屈だから行く、と昨日電話し誘ったら行くと返事があったので行く事になった。

「こうして菜葉と歩くのも、なんか久し振りな感じがするアル」

神楽は、麦わら帽子に袖の無いチャイナっぽい、うっすらピンクの

ワンピースに母のお下がりだというサンダルという夏という感じの
ファッション。

「あゝ、確かに。三日前ぐらいにあったけどそんな久し振りって
感じるゝ」

一方^{いっぽう}菜葉は、普通のブルーのTシャツ姿に青色の錨^{いかり}マークがデザイ
ンされた短パンに、クロックスだ。

まあ、別に変じやなきやどんなファッションでも菜葉はあんまり気
にしない方だった。

神楽はお母さんが、いつも服を選ぶらしい。

可愛いといつも思っていた、、、、。

私も母がいたら、とたまに思う。

「あっ！菜葉、今年も海行くアルよね！？楽しみアルっ♪。

それまでに宿題終わらせて、、、って、菜葉聞いてるアルか??？」

「へっ！！あ、ごめん考え事してたっ。なに？」

「海アルよっ！毎年行ってる。今年も一緒に行くアルよねっ！！？
菜葉っ」

「あ…っ！海っっ！！」

菜葉達が毎年行ってる海。

電車で乗り継いで行く。

日帰りだけど、とっても楽しい。

小四の夏休みの時、銀八が夏休みの時暇だからどっか連れてってくれと言ったら、菜葉と神楽と総悟を連れて海に連れてってくれた。

それがすごく楽しかったので、その次の年からは保護者無しで三人で行っていた。

「うんっっ！！絶対行くっ！！行くに決まってるじゃんっっ！！」

「本当アルかっ！！」

道の真ん中でテンションが上がる二人。

今年は、学校では受験受験受験とうるさかったし、級友も塾や勉強、

バイトなどで全然遊べなかった。

自慢ではないが、自分の記憶力は他の人から比べてずば抜けていた。

ある程度、努力しまくったら大体分かった。

だから暇なので、剣道部に行ってずっとすぶりしたりボくっとしていた。

すっかりではないが、海の事を忘れていた菜葉は海の事を思い出し、テンションがMAXになった。

「あ！そうだ！！総悟も行くか聞かなきゃっ！！」

そう菜葉が言うと、神楽の顔がどうみても嫌そうな顔になった。

「嫌アルよっ、あんなサディスティック男っっ！！」

「そんな事言わないの」

神楽の総悟嫌いも、もう慣れた。

菜葉はてきとうに受け流す。

そして、楽しそうに電話をかけようとする菜葉を、神楽は不満そう

に見ていた。

第四話 最近の図書館って、すごく快適。(後書き)

久しぶりの更新です！

次話は総悟登場なので、お楽しみに〜^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3806t/>

銀魂 3年Z組銀八先生～菜葉～

2011年10月9日03時27分発行